

# 星野空外絵画資料・整理報告－明治から大正初めまで－

|       |                                                                                                                       |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館<br>公開日: 2022-11-15<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 大須賀, 潔<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.15014/00000426">https://doi.org/10.15014/00000426</a>                                     |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



# 星野空外絵画資料・整理報告

## — 明治から大正初めまで —

大須賀 潔

明治44年3月の京都市立絵画専門学校第一回卒業生である星野萬次郎（明治21年－昭和48年）は、空外の号で在学中から文展に出品、第7回文展では、三等賞も得ている。当時の学校仲間による研究団体にも参加して、京都では、将来ある青年画家として期待を集めた一人であった。よく知られている『国画創作協会』は、同じ第一回の卒業生たちによる評価の高い新日本画運動であった。空外は、そこには参加せずに、また別の画家としての道を歩んだ。文展や帝展で活躍しながら、空外は大正期後半の頃から画壇を離れた生き方を選んでいったのだが、終生一人の画家として生きたことは、残されたたくさんの写生帖から証明されることである。幼少から最晩年までの写生類が一括して保存されていたので、それを調査・整理することによって、『国画創作協会』の仲間とは別に近代日本の特徴的な時代を生きた一人の画家をめぐって、絵画制作の本義的な意味を考える機会を得たいというのが、今回の整理報告のもうひとつの願いである。

主要項目；星野空外、京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校、文展、帝展、写生帖

---

### A Research Report; Kuugai Hoshino's Sketches and Drawings —From Meiji to Early Taisho Era—

By KIYOSHI OHSUGA

Manjiro Hoshino (1888-1973), his artist name is kuugai, graduated at the Kyoto shiritu Kaiga Senmon Gakko (Kyoto City Specialist School of Painting) as one of its first alumni in 1911 (Meiji 44th year). Since then, the specialist school that is named Kyoto City University of Arts at present have produced a great number of good artists under traditional education by many prominent artists in Kyoto. It was admirable and high-estimated event that the famous "KOKUGA-SOUSAKU-KYOKAI" movement, which profoundly influenced modern development of NIHONGA (Japanese style painting), formed by the first graduate members. Actually Kuugai Hoshino do not participate in the movement and take a different way of art-life.

Nevertheless he also start as a talented young artist same as other the first alumni, we can not say he succeed in modern NIHONGA world. But he had made a plenty of sketches and drawings throughout all his life, which is donated to our university. This is a research report of those pictorial description, just the parts of Meiji and early Taisho era. With this investigating, We will find an artist who live his own original art-world that lead us to think over the true sense of being artist.

Key Terms; Hoshino Kuugai, Kyoto Municipal School of Arts and Crafts, Kyoto City Specialist School of Painting, Bun-ten, Tei-ten, Sketches and Drawings.

## は じ め に

星野空外、本名、萬次郎は、明治44年3月の京都市立絵画専門学校第一回の卒業生である。よく知られているように、この時一緒に卒業した、入江幾次郎（波光）、榊原春之助（雨村）、榊原安造（紫峰）、松宮実（左京・芳年）、村上震一（華岳）、別科から、小野英吉（竹喬）、土田金二（麦僊）、の7名のなかに後年の『国画創作協会』の結成メンバーたちがいる。そこに参加していないのは、榊原雨村と松宮芳年、そして、星野空外であった。雨村は、当時の文展に入選歴を持っていないことが理由かもしれない。芳年は、文展に連続入選を続ける一方で、美工時代の仲間たち、平井樗仙、山内臥雲らと、研究団体『桃花会』を明治42年に作って展覧会を開く程に活動していた。空外も、紫峰や華岳、波光たちが出品した明治45年や大正2年の『桃花会』展に出品している。芳年や空外たちが『国画創作協会』に参加していないのは、別科にいた麦僊や竹喬たちと親しく接する機会がなかったという程度のこと以外に、結成に賛成ではなかったとかの深い理由があったわけではないように思えるが、真実のところは今も不明のままである。

『国画創作協会』の麦僊や竹喬、紫峰、波光は、日本画家として高い評価を得た。芳年も、後年は川端龍子の『青龍社』の社人として、昭和41年の没年まで制作活動を続けている。雨村と空外は、やがて展覧会への出品を断念し、いわゆる職業的な画家とは別の道を歩んだ。しかし、少なくとも、空外は、最後まで画家であり続けたと言っている。つまり、展覧会などに作品を発表する作家的な活動をする日本画家という意味の画家ではなく、別の姿勢で、終生描くことを忘れず、描くことの初心を貫いた画家という意味で一人の真性の画家であった。展覧会への出品制作をやめた昭和戦後の写生帖がそれを雄弁に物語っている。孤高というのでもなく、昔の仲間たちの栄光とは別に、淡々と自分の描くことの道を歩き続け、他の何のためにでもなくたくさんの写生帖だけを残した。今日、絵画制作が商業主義に毒されて本来の在り方を失いかけている時、そうした姿勢というのは、看過しがたい大切な意味を持つように思われるし、写生作品としても独自の暖かな雅趣を備えた世界は充分注目に値する。

今回の星野空外絵画資料の整理報告は、残されたたくさんの写生資料を整理することによって、他の同級生たちとは違った道を歩んだ絵専の栄えある第一回卒業生の、画家としての生涯がどのようなものであったか、その実像の輪郭に少しでも近付くことができたと試みたものである。しかしながら、内容の確認と整理は、まだようやく20歳代の前半に至ったに過ぎない。写生帖の背後にある時代的な状況の推移も併せて見なければならぬだろうし、全体的に総括するにはまだまだ不十分すぎるので、今回は整理の報告にとどめ、空外の全体像については、整理が終わるまで保留しておくしかない。その時には、資料の紹介展示とともに、再評価を世に問いたいと思う。ここに星野空外の写生類や蔵書類も含めて、関連する一切の貴重な資料をご寄贈頂いたご遺族に対し、深い感謝を表する次第です。

なお、紙数の都合で残念ながら図版は割愛した。整理段階までの略年譜を終りに掲げておく。

## 『星野空外絵画資料・写生帖』

作業は、まず制作年順に写生帖を整理し、内容を確認することから始めた。空外本人が制作年を再表記している場合が多く、制作年はかなり正確に整理できるが、よくあるように、一冊の写生帖が数年にわたって使用されていることは、しばしばあった。その際には、一番古い年代に従って整理をしている。各写生帖の題名は、空外自身は、単に写生帖としているだけなので、整理の都合上内容などから便宜的につけたものである。制作年不明のものも少なくなく、それらを含めて、帖仕立てになったもの、ノートを生生帖にしているものの全体の数量は、整理してみるとほぼ次のようになった。

### 星野空外写生帖数量

| 明治大正期   |                  |
|---------|------------------|
| 明治      | 31<br>(今回の整理報告分) |
| 大正 元年   | 1                |
| 2 年     | 2                |
| 3 年     | 3                |
| 4 年     | 3                |
| 5 年     | 6 (内画卷2)         |
| 6 年     | 3                |
| 12 年    | 2                |
| 不明      | 37               |
| その他・詩など | 4                |
| 明治大正 合計 | 92 冊             |

| 昭和期    |   |         |   |
|--------|---|---------|---|
| 昭和 2 年 | 1 | 昭和 19 年 | 6 |
| 3 年    | 1 | 20 年    | 1 |
| 4 年    | 1 | 21 年    | 1 |
| 7 年    | 4 | 22 年    | 2 |
| 8 年    | 2 | 23 年    | 1 |
| 9 年    | 2 | 25 年    | 2 |
| 10 年   | 4 | 27 年    | 1 |
| 11 年   | 1 | 30 年    | 1 |
| 12 年   | 4 | 32 年    | 1 |
| 13 年   | 1 | 39 年    | 1 |
| 14 年   | 3 | 42 年    | 1 |
| 15 年   | 3 | 43 年    | 1 |
| 17 年   | 5 | 不明      | 2 |
| 18 年   | 2 |         |   |
| 昭和 合計  |   | 55 冊    |   |

総 計 147 冊

- 1 『美工入学』 明治34年 24.2×16.6cm 和紙 36紙、右綴じ  
 表紙(「黒香餅」の菓子包み紙)、裏表紙(和紙、裏から二枚目が表紙と同紙)共に墨書なし  
 2 枚目 墨書「伊國王女ヨランドマーゲリタ殿下 6.1901。」の子供の墨写生、写真からののか、未確認である。以下、写真からの西洋人物などがある。  
 10枚目 椅子に座る西洋人物、墨淡彩、ペン書きのような墨の線である。  
 9/10枚目 墨書「巴里風俗中京ノ／取引所／小山正太郎筆」の西洋婦人像の写し  
 13/14枚目 墨書「實大二分ノ／六日寫」の藤の花墨淡彩写生以下、縮図や「英国自転車隊」、トラ、ライオン、ワニなどの動物、竜図などが続く。  
 34枚目 墨書「35年8月12日」の僧侶後姿の墨写生  
 全体に縮図や写真からの写しが多いが、風景写生も4図ある。明治34年から35年にかけて使用されたものと推定される。
- 2 『美工模写』 明治35年 24.8×17.0cm 和紙 66紙、右綴じ  
 表紙、裏表紙ともなし。  
 1 枚目 墨書「高野川上流／8月(日付部分欠落)寫」の墨淡彩写生  
 6 枚目 墨書「百年」の恵比寿図の墨模写



- 11枚目 墨書「明治35年7月17日寫／本山若干寺瀧」の墨淡彩写生
- 16/17枚目 墨の西洋人物写し
- 24枚目 墨書「源應舉墓」「寛政7年乙卯7月17日卒」の墓所墨写生
- 28/29枚目 武具の墨写生
- 37枚目 頼山陽の墓所墨写生

38枚目以後は、それまでも時々天地逆に使用されてきたのが、ずっと66枚目までの最後まで天地が逆様に使用されている。西洋人物など写真からの写しや、甲冑人物、玉泉の水鳥の模写などがある。これらの中でも人物の写しは墨の線が濃淡なく細くペン書きのように見える。

3 『美工習画』 明治35年 27.5×38.5cm 和紙 18紙、右綴じ

表紙、裏表紙ともなし。

- 1枚目 墨書「35.6.12 入江一雄」、朱書「第21号」の団扇
- 2枚目 墨書「明治35年5月27日写／星野萬次郎」、丸乙印あり
- 3枚目 墨書「(赤貝蛤)／明治36年1月14日寫之／平井秀三」など

その他に第一軍従軍畫報の挿絵写しなど、なお平井秀三は、後の平井棧仙であり、同級生である。入江一雄は、美工絵画科の一学年下の仲の良い友人であったようだ。号を頓米といったが、官展への入選歴はない。

4 『美工花鳥』 明治35年 27.7×38.5cm 和紙 18紙、右綴じ

表紙(反古紙)、墨書なし、裏表紙なし

- 1枚目 墨書「明治35年9月20日寫之／星野萬次郎」、蝶の写生
  - 4枚目 紙背朱書「図書保管第27号(ウグイス／ルリ)」
  - 9枚目 墨書「明治38年3月10日寫之／しぎ・めす 星野萬次郎」の写生、丸甲印あり
  - 10枚目 墨書「明治40年3月7日寫／ををむ」のオウム墨淡彩写生
  - 11枚目 墨書「明治37年5月28日 星野萬次郎」のきじの細密写生、墨・淡彩、同じく12、13枚目にも続く。丸甲印あり
  - 13枚目 紙背朱書「図書保管／第17号(きじ)」
  - 17枚目 川岸の舟の着色写生、同じく18枚目も別の川岸の舟写生
- 他にも、ワシやウグイス、夕顔などがある。課題の写生がまとめられている。

5 『美工風景』 明治37年 44.0×33.0cm(最大部) 和紙 22紙、右綴じ

表紙、裏表紙ともなし。

- 4枚目 墨書「明治38年8月10日夕／勝浦裏町ヨリ東ヲ望ミテ写ス」の2紙にわたる墨着彩海岸風景写生
- 5枚目 墨書「フゲン／8月6日」の山岳墨淡彩写生。
- 8枚目 墨書「雨中山上ニテ」の松の墨写生。
- 10枚目 墨書「ハケ峯頂ヨリ／日本海ヲ望ム／37年11月8日午後4時30分」の墨淡彩風景
- 14枚目 墨書「4月13日写生／伏見の町はずれ」の2紙にわたる墨淡彩家並み写生
- 17枚目 墨書「4月14日竹田乃ステーション前」の家並み写生
- 21枚目 墨書「11月9日／駒ヶ嶽」の墨山岳写生

大小不揃いの和紙を綴じた写生集。風景の他に、ガクアジサイやサルズベリなどの花があり、駱駝の写生も三図ある。37年と38年の墨書によって、ここに整理しているが、他の写生については、この前後のものと推定されるだけで正確には特定できない。

- 6 『美工本科』 明治38年 40.0×27.5cm 和紙 29紙、右綴じ  
 表紙（和紙）、墨書「明治38年5月製之／寫生／星野蔵」「バラ／スイレン、カワセミ、レン  
 シヤク、キンバラ、カケス、ヒバリ／バン、ムク、オシドリ／五イ、セミ／ハギ、  
 カケス、ヒナ／カイツムリ、カヘル／サルスベリ、トンボ／ヨムギ／フキアゲソ  
 ー／アサガホ／ケイト、ノギク、カヤツリ、ツユクサ／ククノキ、カタツムリ／  
 カキ、イナ／山キヤウ、ミソハギ／フヨウ／キク／リンダウ／バラ／キク」  
 裏表紙（反古紙）、墨書「星の空外土盈／空外土盈」  
 20枚目 墨書「40年4月14日寫」のモクレン墨淡彩写生  
 23枚目 墨書「明治38年5月1日寫之」の牡丹墨淡彩写生  
 花・鳥・虫・蛙など表紙に墨書されたものの綿密な写生帖にまとめられている。40年のものも  
 あるが、ほとんど38年の5月、8月、12月の写生である。裏表紙は破れなど傷みが甚だしい。
- 7 『美工紀州行』 明治38年 34.5×24.5cm 和紙 21紙（表紙、裏表紙含む）、右綴じ  
 表紙、墨書「38年の秋 紀州行／寫生帖」「明治38年11月／合田一峰先生付添／ノモトニ美  
 工繪畫科／第三学年生徒／紀州熊野勝浦港付／近ニ修學寫生旅行ヲ／ス。」「（コノ写  
 生ハソノ時ノ／記念ノモノ）／古座、應挙寺見學。／瀨峽、相瀬見學。／那瀑見物。／那  
 智ノ宿屋／佐藤禎吉方ニ宿泊。」  
 裏表紙、墨書「土堀内ノ柳／墓 仲田一ノ／寫生下ガキ／鴨 佐野有年／ノ寫生／其他反古ノ  
 中／ヨリ切抜キタル／モノ二三ヲ貼付／ケテオク」「星野萬次郎」「吉田山ノ松」の  
 墨写生あり  
 紀州熊野勝浦に写生旅行した時のもの、表紙裏から17枚目まで勝浦付近の海岸風景などの墨写  
 生が続く。以下、裏表紙の裏まで、鷹、桜の墨写生の貼り込みがある。
- 8 『美工専攻科』 明治39年 17.0×24.5cm 和紙 13紙、右綴じ  
 表紙（洋紙反古紙）、墨による人物や「山紫水明」の落書きがある。  
 裏表紙、墨書「京都市立美術工藝学校／絵画科専攻科第壹学年／生」、「明治39年6月6日」  
 2枚目 墨書「6月6日空也之下流にて寫」の墨淡彩の滝の写生が三図ある。  
 5枚目 墨書「June. 1906. KUGAI」のパンジー墨淡彩写生  
 以下、滝の写生、「6月28日」の家の写生、人物戯画、「如意獄」の滝の写生などがある。
- 9 『奉天風景』 明治39年 17.0×24.5cm 和紙 28紙、右綴じ  
 表紙（和紙反古紙）、墨書「丙午之夏／寫生帖／空外、印空外」、裏表紙（同反古紙）  
 1枚目 墨書「8月8日／奉天城外ニテ寫」の墨淡彩樹木写生  
 以下、荷馬車の馬写生、大連市の新聞挿図貼り込み、「奉天の運搬車」や「鉄嶺城の壁」の簡  
 単な墨スケッチ。  
 11枚目 墨書「奉天城外の田家」の墨淡彩写生  
 12枚目 墨書「奉天駅付近ニテ／7月31日」の墨淡彩風景写生  
 以下、メモ書記、奉天北陵などの新聞写真の貼り込み  
 27枚目 墨書「7月24日寫」の船上の墨淡彩写生、他にも船内の写生  
 船上からの島の写生がある。  
 この年の7月24日に船出して8月半ば頃まで中国を旅行したと思われる。単独なのか、家  
 族が一緒なのかは、特に記されていないので不明である。

- 10 『奉天人物』 明治39年 17.5×13.5cm 和紙 32紙、右綴じ  
表紙、裏表紙ともなし  
8枚目 墨書「安南地方之山」の墨淡彩の風景  
11枚目 墨書「妓館」の墨淡彩の人物と店の表風景  
13枚目 墨書「俳優／扮粧」の京劇の化粧支度風景、墨淡彩  
15枚目 墨書「路傍／剃頭」の墨淡彩散髪風景  
年記の書き込みはないが、奉天での生き生きした臨写の見られる小写生帖になっている。
- 11 『美工時代』 明治39年 25.0×34.3cm 和紙 90紙、右綴じ  
表紙（和紙）、墨書「明治39年／同40年／大正3年」「寫生帖／瀨行は大正3年3月／加茂／明治39年次頃」、裏表紙（和紙）、墨書なし  
初め白紙5紙、以下、絵本からか西洋風景などの写し5図、華嚴縁起の写しなど  
17枚目 墨書「上加茂1月16日」の松の墨写生  
19枚目 墨書「カラスの卵 大正5年4月26日記伊国／日高郡松原村塩路氏別宅にて」  
「此の日の夕鳥の玉子を煮て一寸／それを食ふて大に胸を悪くす／」のカラスの卵の着彩写生  
26～30枚目 キリストなど西洋の物語の墨や着彩の模写  
31枚目 墨書「40年5月5日寫」の野鳥墨写生  
41枚目 墨書「41年6月7日寫」の樹の墨写生がここまでに5紙  
48枚目 墨書「7月4日／吉田山にて／白川村を望む」の風景の写生  
以下、鴨の細密墨写生5紙、仏画写し、風景写生  
61～72枚目 瀨峡らしき風景の墨写生  
以下、鉛筆書「10月11日寫」の着物女性5紙、西洋婦人図など、最後に紙質の違う6紙に家の墨淡彩写生などがある。表紙に書かれているように、数年のものを後日まとめた写生帖になっている。
- 12 『伏見近隣』 明治40年 22.8×15.0cm 和紙 40紙、右綴じ  
表紙・裏表紙とも教科書『日本地理』（明治27年発行）を使用。裏表紙に朱書「星野蔵」  
3枚目 墨書「10月12日朝／木屋町大根洗い」の墨淡彩写生  
15枚目 墨書「竹田街道の雨／10月20日」の墨淡彩写生  
40枚目 墨書「明治40年9月9日／作之」  
写生帖として作られて、常時携帯したものなのか近隣を歩いた写生が多く短期間のうちに使用された写生帖になっている。
- 13 『神楽ヶ岡1』 明治41年 22.0×15.3cm 和紙 46紙、右綴じ  
表紙（茶和紙）、墨書「明治41年11月30日／寫生帖」、裏表紙（茶和紙）、墨書「星野萬次郎」  
裏表紙裏、墨書「21歳22歳／神楽ヶ岡。吉田上大路。／美術工藝学校専攻科」  
1枚目 墨書「明治41年11月30日、同42年2月迄／桃山。出町。江州守山。中村。へそ村／野洲。深草。稲荷。今熊野。吉田山。」など、写生の場所の覚えになっている。  
以下、桃山の風景、桐、ぐみの木や、出町橋川端での縫い物をする女性二人の後姿の墨淡彩写生など  
8枚目 「守山にて 滋賀縣／12月2日／栖鳳先生／翠嶂先生／竹杖会の／人々／華秋、高容／麦僊氏／等と共に／中村。へそ村／穴村、野洲／に至る」  
以下、赤子を背負う女子、炊事をする婦人、炊事場、農家、などの墨淡彩写生。







- 4 枚目 墨書「12月15日修學院村より／白川村を望む」の風景墨淡彩写生  
 29枚目 墨書「15・淀にて」の柳と橋の墨淡彩写生  
 45枚目 墨書「村上華岳氏構想の様」「2月5日／空外寫」の墨人物写生、詰め襟の学生服姿の華岳が絵筆を持って考え込んでいる様子が描かれている。  
 48枚目 墨書「中村不折筆空外模／明治41年2月5日夜2時頃」の模写縮図、他に不折の巴里での制作の写しが二点ほどある。

以下、特に書き込みはなく、樹木、西洋人物、風景の写生が続く。

- 92枚目 墨書「明治41年3月28日臨寫／美術学校々友會展覽會／特別陳列」の縮図が10図ほどあるが、作者名の記録はない  
 97枚目 墨書「明治41年／3月31日八丁繩手より横大路村を見る」の墨淡彩写生  
 112枚目 墨書「明治41年4月22日／紫峰君と波光君／鞍馬路にて」  
 120枚目 墨書「古き寫生帖を集めて／千九百十一年一月」  
 121枚目 墨書「初夏之小栗栖村／5月17日」の風景着彩写生

以下、牡丹、農家、風景、家鴨、人物、など、

- 146枚目 墨書「六地藏／明治40年8月」の俯瞰的に見た家並の写生

以下、八重桃、樹木、家並、椿、など、

- 166枚目 墨書「大坂電燈會社」の舟溜まりと家並の墨淡彩写生  
 183枚目 墨書「明治41年7月」の中扉風になっている。  
 184枚目 墨書「7月5日加茂川下流／高橋附近にて寫」の緑樹着彩写生  
 185枚目 墨書「北米アラスカの新市街」の写真からの精密な写し

以下、トンボ、ねずみ、六地藏の丘陵の着彩写生、百合、など、

- 203枚目 墨書「5月8日駄馬」の墨淡彩写生

以下、「うまのあしがた」の野の花、笹、青楓、よもぎ、えんどう、ぼたん、つつじ、すみれ、など、野の花の写生が続く。

- 220枚目 墨書「5月4日比叡山頂」「明治40年／5月4日比叡山／頂上」（戦後に整理した時に書き込んだもの、他にも随所に類例あり）の学校から皆で写生に出た折のスケッチ、同級の松宮實を写生したものもある。

- 222枚目 墨書「繪はがき波光筆」の淡彩のつながれた荷馬の写し  
 以下、再び「5月8日」の駄馬、鶺鴒、「5月10日雨中、仙洞御所の森」の樹木の風景、葵祭りの人物、浅井忠作『初冬』（大原女、所在は不明）の縮図など、

# 15 『写生合本2』 明治40年 25.2×17.5cm 和紙 292紙 右綴じ

表紙（和紙）手作り、墨書「寫生帖」、背墨書「寫生帖明治41/2年頃」

表紙裏、墨書「明治40年郷土風景／同奈良風景／同保津川／明治44年淀川（橋本風景）／大正3年松竹梅」、裏表紙（和紙）手作り、墨書なし

裏表紙裏、墨書「何たる下手な寫生であろうか、／然しさう差るにも及ぶまい、怠らず勉強をつづけて／ゐるうちには屹度上達するであろう。又さうならな／くてはならない。／此寫生帳も自然に乏失する迄捨てるのは見合すが／よい。親に買って貰った紙だ親の恩を忘れぬために／も又昔を思出すためにも自分の手で保存できる間は／保存して置くがよい。」

この写生帖も表紙の体裁から見て、戦後の昭和22年にNo.27と同様に再編集してまとめた約7冊分ほどの合本になっている。

- 1 枚目 墨書「明治40年7月24日」の墨淡彩の家並風景写生

以下、25日京橋、中書島の墨着彩風景、「7月25日午後1時／八十歳の婆々の晝寝す」の墨淡

- 彩人物写生、御香宮の樹、トウモロコシ、茄子の着彩写生など、
- 12枚目 墨書「芳年君は南向に／𠂔米は北向にな／って寫生した所／8月2日／伏見今富橋」の着彩風景
- 以下、同日の伏見、3日の辻桃岸氏の家で久我村の風景など
- 18枚目 墨書「8月4日／芳年桃岸両氏と共／に御香宮にて寫す／筆法は雪／舟にならふて／やる／つもり／であったのだが」の人物墨写生
- 21枚目 墨書「明治40年／8月17日寫／一口村にて此所にて廣江君と一所に遊びだ」の池の舟着場の着彩風景写生
- 25枚目 墨書「東寺あせぐらの浦がわつきあたりは東の門からはひった前である／五位鷺の子がたくさん餌を求めてゐる兩岸の樹木の生へ方一寸趣がある／8月31日寫生す」の墨淡彩風景
- 29枚目 墨書「東寺の森8月31日寫炎熱焼くが如きなりき／此の時猪飼さんに出會った」の森の着彩写生
- 39枚目 墨書「明治40年7月／1日竹内栖鳳先生／西山翠嶂先生／引率のもとに専攻科／生徒舊卒業生住谷氏／を加へ一行奈良見／学の記念寫生」
- 以下、行基堂、春日野の鹿、雨やどりした浄土堂、7月2日、興福寺の五重塔、白毫寺、3日、新薬師寺、法隆寺などの建物、風景の写生がある。71枚目に墨書「皇紀二千五百六十七年7月1日作之」とあるから、ここまでは、奈良の写生旅行のために作られたことが知られる。
- 72枚目 墨書「明治40年」
- 以下、6月3日写生のバラ、山水図縮図、溪流写生、など
- 106枚目 墨書「明治40年／6月の／9日夕寫」の空外らしき人物が夕食の前に写生をしている墨淡彩の居室風景。
- 110枚目 墨書「郊外寫生 興平筆」の縮図
- 111枚目 墨書「ひる寝／むら上君」の村上華岳の墨写生
- 112枚目 墨書「星野空外／南陽君夏向きの頭をして而も／雪舟さんの 港の図の 〃を睨みながら尺八を吹く様／丁度昔雪舟／さんが尺八お好／きであって画を／かくあいだに尺八を／吹いてられた姿が／しのばれるので／余は思は／ず画筆／を手に／して…」
- 「明治丁未水無月2日／朝寫之／明治40年6月2日」の樫野南陽の墨淡彩写生
- 119枚目 墨書「僧雪舟筆山水畫卷」「5月17日模」
- 以下、向嶋村の墨淡彩風景、三栖の風景、淀、竹田街道、巨椋池、などが、順次5月の日を追って写生されている。
- 145枚目 墨書「明治41年2月18日」の墨風景写生
- 以下、黒谷、下加茂の風景、雪舟の縮図、馬、梨の花など、
- 176枚目 墨書「4月7日八重櫻／学校の園にて／寫す」の墨淡彩
- 183枚目 墨書「学校内にて寫／桃樹4月12日」の墨写生
- 以下、蒲公英、桜花、など、
- 193枚目 墨書「明治39年」「芳文先生筆／空外縮模」の雀
- 194枚目 墨書「5月3日／芳文筆／𠂔米模」の雀
- 195枚目 墨書「明治44年星野空外」「寫生帖44年／はる2月」これは、独立した写生帖の表紙そのままである。整理した時に一緒に合本したものである。
- 206枚目 墨書「枚方にて／3月4日／明治44年」の家の墨淡彩写生
- 以下、卒業制作の『淀川』に使われている橋本付近の家並風景の写生がある。
- 217枚目 墨書「4月21日吉祥院天満宮境内辨天堂」の墨写生

- 250枚目 この写生帖の裏表紙にあたるもの  
 251枚目 墨書「写生帖 大正3年冬 空外」  
 これも、また別の独立した写生帖の表紙になっているものである。  
 253枚目 墨書「大正3年11月11日」の墨淡彩の農家写生  
 以下、菊、竹、松、桜の枝、竹林、海岸風景など、特に目立った書き込みもなく、簡単な墨による写生帖になっている。  
 292枚目 独立した写生帖の裏表紙にあたるもの。

- 16 『神楽ケ岡2』 明治41年 32.5×24.0cm 和紙 65紙、右綴じ  
 表紙(和紙)、墨書「明治41年10月／写生帖」「大正12年大風災の時二階の押入の／壁と共に吹飛ば／され雨晒しにな／ってゐたもの既に／一ト役以上も済んだ／古寫生寧ろ保存／の世話がもっとも自然に免／れて幸いくらいに思／ってゐたもの後日近所／の人厚意をもって／届けてきて下さる」、「明治四拾壹年拾月製之」  
 表紙裏墨書逆書「41年初冬神楽ケ岡にて／空外／角印空外」  
 「秋自梧桐聲裏得／寒如促織語中二催」  
 裏表紙(和紙反古紙) 墨書「明治41年／明治42年／神楽ケ岡／村山方に止宿」「星野空外」  
 10枚目 墨書「11月7日／巨椋堤」の樹の写生  
 14枚目 墨書「11月7日／巨椋村にて」の農家の写生  
 20枚目 墨書「11月10日／真如堂／内ニテ」の山門の写生  
 45枚目 墨書「くぬ木正月23日寫」の樹の写生
- 17 『鉛筆人物』 明治42年 11.8×16.0cm 洋紙 35紙 右綴じ  
 表紙(厚板紙) 表紙裏に人物鉛筆淡彩  
 裏表紙(厚板紙) 裏表紙裏に墨書「明治42年2月／星野空外」  
 ほとんどが鉛筆による正月の人出を描いた人物スケッチである。  
 23～24枚目 鉛筆書「三十三間堂の夕」の鉛筆淡彩写生  
 28枚目 鉛筆書「大阪市の火事8月1日午後2時頃」の鉛筆淡彩写生携帯用の市販のスケッチ帖である。洋紙なので鉛筆が使用されている
- 18 『比叡山・新宮』 明治42年 25.5×33.5cm 和紙 96紙、右綴じ  
 表紙(和紙)、墨書「明治42年 大正3年／寫生 比叡山42年／六地藏42年／箱根42年／新宮 大正3年冬12月塩崎君の宅にて」、裏表紙(和紙)、墨書なし  
 6枚目 墨書「写生帖 42年なつ 空外」の中扉の体裁がある。  
 7枚目 墨書「8月12日／根本／中堂」の墨・着彩写生  
 12枚目 墨書「比叡山信徒宿院にて／夕飯の時間は未だ来ぬ波光氏は室の西の端に自分は／東の隅に寝ころんで沈黙して居る前夜の眠りが足りな／かったため唇を開くべく気乗りがせぬのであろう 趣きのある／夏の山寺の座敷に紫峰氏と霞明氏は基石を片附／けて煙草を薫ゆらし乍ら何が語り合っている四辺の巨／杉に蝸やつくつく法師やらが夏の夕暮れを心忙しさに鳴き／くさる清閑な所に於て波の声は都会に於て電車や／馬車の響とその場所から比例して聒しく感じる度合が同じと而も一種厭な悲哀な声である杉と杉との間二間に足ら／ぬ所から大津の全市が見える柴田成教君もその一分子である今を／三井寺の画稿を作っている」  
 13枚目 藁葺きの農家の墨画写生、28枚目まで関連する写生  
 15枚目 民家・墨画淡彩写生、縫い物をする半裸の女性



35枚目 墨画「10月12日／東海道沼津駅にて／作之／東京行／42年あき10月／空外」

36枚目～39枚目に行程と簡単な金銭出納の記録が記されている。

それによれば、11日に京都を出発し、12日静岡の周辺を見て歩き、夜には、沼津に泊。13日東京着。16日美術協会展や美術学校の展覧会。17日に文展を見て、鎌倉、鎌倉に泊してから箱根、20日箱根松坂ホテルを出発して静岡（5.30）、名古屋（11.08）、京都（3.58）に帰りついている。

41枚目 墨書「あしの湖10月19日」の風景写生など、48枚目まで

76枚目 墨書「2月16日／風の日丹鶴城より」の舟泊まりの写生

従って、明治42年の10月は東京見物で展覧会を見たり、鎌倉、箱根を歩ったりしているが、写生は、箱根だけである。大正3年の12月から翌年の2月までは新宮の友人、塩崎宅に滞在していたようである。

19 『亀岡・白川村』 明治43年 24.7×17.0cm 和紙 29紙、右綴じ

表紙（和紙）、墨書「4拾3年春2月／星野空外」

裏表紙（和紙）、墨書「亀岡／上鳥羽／白川／明治43年2月／新調」

1～4紙、西洋絵画の模写など

5紙（9P目） 墨書「入江波光筆／寒林図中之／小禽」の鳥の写し

6紙（10P目） 墨書「聖恩寺の森／自宅より寫す／4月10日」

7～8紙 墨書「2月12日／丹波亀岡にて」の風景細密着彩写生

24～26紙 2月6日の白川村の風景写生

27紙（54P目） 舞妓写生

29紙（57P目） 墨書「2月12日／丹波亀岡にて」の風景着彩写生

20 『絵専時代1』 明治43年 24.3×32.0cm 和紙 34紙、右糸綴じ

表紙（和紙）、墨書「明治43年9月」「寫生帖 43年／の9月」

右下、朱丸印「空外士盈」、左下、青方印「空外士盈」

裏表紙（和紙）、半分破損失。

4枚目 墨書「9月8日」のおしろいばなの墨写生

10～15枚目 墨書「9月14日」のアヒルと餌場、垣根の淡彩写生

28枚目 墨書「吾が友松宮君の像」の墨人物

30枚目（裏頁） 墨書「11月7日／大雲院にて／時代祭の馬」の写生

33枚目（裏頁） 墨書で住所氏名のメモ書きあり。

他に、椿などの墨写生がある。

21 『塩原温泉1』 明治43年 24.7×33.0cm 和紙 29紙、右糸綴じ

表紙（和紙）、墨書「明治43年10月／栃木縣塩原風景／その一」「寫生帖 43年／の10月 星の空外」、裏表紙（和紙）、墨書なし

1枚目 墨書「10月21日雨／塩原の山／ふちや／温泉宿の／三階より」の淡彩風景写生。  
それが5枚目まで続く。

6～9枚目 一本の樹の写生。

以後、同様な風景と樹木の野の写生が続く。20枚目は、紙を半分足して空間を延ばしている。

21枚目 山村農家の淡彩写生。

22枚目 溪流の大岩の丁寧な淡彩風景写生、「野立石」の書込みあり

23枚目 墨書「天狗岩」の風景写生。



25枚目 墨書「西那須野駅／待合室より写」の淡彩駅前風景。

22 『塩原温泉2』 明治43年 24.0×32.3cm 和紙 13紙、右綴じ

表紙（和紙）、墨書「明治43年10月／栃木縣塩原風景其二」

「寫生帖 43年／の10月 星の空外」

裏表紙（和紙）、墨書「明治43年10月21日／（23歳）」

1枚目 墨書「栃木縣塩谷郡／塩原村湯本塩原／ふじ屋六平方門前にて」

「10月21日／新湯／温泉の宿」の墨の宿屋写生。

以下、3枚目、樹、7枚目、山小屋、10枚目、森の枯れ木、12枚目、湯元の温泉場の風景など、いずれも淡彩の写生がある。

23 『絵専時代2』 明治43年 9.8×14.5cm 洋紙 26紙、右綴じ

表紙（厚板紙）、裏表紙（厚板紙）とも墨書なし

裏表紙に鉛筆による汽車賃など金銭出納のメモ、時刻の控えの書き込み

3枚目 鉛筆書「10月15日車窓より」の富士山の鉛筆淡彩写生

5枚目 鉛筆書「風月堂にて／菱田春草氏」の後姿の鉛筆スケッチ

以下、塩原の書き込みと「龍ヶ鼻」などの風景の簡単なスケッチがある程度である。メモによると、汽車賃は、89円88銭、急行券が、48円05銭

15日9時25分発で、新橋には、11時20分に到着している。富士山の写生があるから、朝に出発して、夜に着いたのだろう。「17日博物館20」のメモもあるので、第4回文展も見た筈である。その後20日に塩原に入っている。京都には25日頃帰っている。「8時45分発／新橋より京都まで／切7947／急8644／京都10時35分着」であった。

24 『絵専時代3』 明治44年 27.5×38.5cm 和紙 31紙、右綴じ

表紙なし（欠損）、裏表紙（和紙反古紙）、墨書なし

1枚目 半分欠損、墨による鹿の写生（2枚目も）

8枚目 墨書「明治44年9月1日」のおはぐろとんぼの写生

9枚目 墨書「4月16日寫」のすずめの写生

19枚目 墨書「1月11日模」の浮世絵の縮図模写、色の書き込みあり

27枚目 墨書「明治37年6月／入江一雄／朱丸乙印」の兎の写生

28枚目 同じく兎の写生、裏面朱筆「図書保管第 号（兎）」

空外以外の写生も綴じられており、順も不正確、後年バラバラのものをまとめたものと思われる。空外らしき写生は、ほぼ明治44年の頃と推測される。

25 『絵専研究科』 明治44年 24.3×32.7cm 和紙 33紙、右綴じ

表紙（和紙）、墨書「明治44年」「寫生帖 44年／のなつ 空外」

裏表紙（和紙）、墨書「明治44年／7月27日／（24歳）」

1枚目 墨書「7月27日／紫蘇」の淡彩写生、同じく翌日2～3枚目

4枚目 里芋畑の淡彩写生

5枚目 7月31日の鳩の淡彩写生

9枚目 墨書「梨／8月7日」の樹に実る梨の淡彩写生、以下14紙にわたって、8月に梨の写生がある。

17枚目 モグラの淡彩写生

20～21枚目 8月26日の葉鶏頭の淡彩写生

ほぼ、1カ月でこの写生帖を終えている。紫蘇と梨の写生に集中しているのが、特徴的な写生帖である。他に、6枚目には、トンボの写生の貼り込みなど、三種のトンボの写生もある。

26 『日野村樹木』 明治44年 24.4×33.6cm 和紙 49紙、右綴じ

表紙(和紙)、墨書「寫生帖 44年の／あき拾月 空外」、裏表紙(和紙)、墨書なし

2枚目 墨書「10月6日／日野村」の農家淡彩写生

3～16枚目 樹木や木の葉など主に墨による11月の写生

17枚目 死んだ子鼠の墨写生

以下、墨による樹木のある風景、林などの写生が中心で淡彩は少ない。

30枚目 椿の樹の淡彩写生

48枚目 子鼠の淡彩写生

27 『写生合本3』 明治39年 25.0×34.0cm 和紙 132紙、右綴じ

表紙(復古紙)、墨書「星野」、墨方印「空外」

「明治39年以後の絵復古／明治39年満州スケッチ／明治41年渡辺華山／一掃百態の模写／明治43年まで／博物館新年／陳列の模写／支那画模写二枚／鳥類の写生戸模写／歓喜天女の模写 牛 虎／人物岩 衣笠の風景写生／樹木 鳥 上鳥羽村の写生」、裏表紙(復古紙)、墨書なし

2枚目 中国人物の墨写生

3枚目 紙を継いで横倍にして満州の城外墨写生

4枚目 同じく、荷馬車の墨写生

8枚目 幌のある人用馬車の淡彩写生、9、10枚目も同じ墨の写生

13枚目 紙を継いで縦倍にして仏塔の墨写生、15枚目まで満州写生

16～28枚目 渡辺華山「一掃百態」の近世人物風俗模写

30枚目 墨書「明治41年1月10日／博物館(新年陳列)」、徹山の武家人物作品の淡彩模写など、模写三紙

33枚目 墨書「疑冬花(ふきのとう)」、謄写印刷で「明治十年 月 日寫之」とあり、明治36年3月5日の書き込みがある。乙の朱丸印。根元から掘り出した〈ふきのとう〉の淡彩写生

39～40枚目 鳥の淡彩写生、40枚目は、右下に空外の朱方印あり

41枚目 芳文作品の模写

42～44枚目 洋紙、43枚目のペン書「2月17日／動物園○○寫○○」

44枚目 ペン書「戊戌春二月／於動物園」の鉛筆墨淡彩のおしどり写生

この三紙は、明治31年の写生になるので、最年少のものと言える。

46枚目 梨の果樹におはぐろトンボを配した縮図、明治44年の写生帖に同様の写生があるので、これと同時期のものであり、おはぐろトンボの位置など貼り込みもあるので、作画のための小下絵とも推定できる。

以下、仏画や雪舟、浮世絵の模写などが続く。

75枚目 墨書「漁夫の娘／8月29日／巨椋にて」の娘の顔の淡彩写生

80～85枚目 大岩の墨写生

以下、風景や洋画の模写、藤島武二の「西班牙の踊子」(97枚目)、樹の墨写生など。

112枚目 「画界漫語抜記」として、墨書14行

113枚目 墨書「伏見石峯寺之門昔若沖が禅学ヲ修メテ花鳥図ヲ／作ッタノハ此ノ寺デアル此ノ日繪之具ヲ忘レー文菓子屋ニテ／繪之具ヲ求メタ(一箱二錢五厘)／9月20

日寫／門より離るる事約三間」の石峯寺の門の淡彩写生

114枚目～129枚目 民家の淡彩写生など

130枚目 墨書「竹田村にて」の機織りの婦人の墨写生

この写生帖は、一枚ものや綴じ忘れのものを後年に再度まとめたものであるが、それだけに空外自身の眼が入っており、内容として多彩に充実している。特に、明治31年の10歳の頃の動物園でのスケッチが残されていることは、興味深いだけでなく、少年としても優れた観察を見せているものだけに、星野空外についての貴重な資料というべきだろう。

28 『写生合本4』 明治38年 33.6×24.6cm 和紙 135紙、右綴じ

表紙（洋紙）、墨書「星野空外／寫生 明治38年柿、黄蜀葵／明治40年丹波奥地 下鴨／明治43年丹波亀山 淀 三栖 白川／明治41年 8 月 夏の梅の樹／大正10年／復古のうちよりのこして綴じておく」

表紙裏、墨書「明治43年 淀、三栖、白川、銀閣寺附近、丹波亀岡。／明治41年 李、梅。／明治38年 柿、黄蜀葵／明治40年下加茂の森にて。伏見の柳、鞍馬道、丹波路／御苑内の木。」、裏表紙（復古紙）、墨書なし

1 枚目 墨書「明治43年／1 月 淀」の墨淡彩農家風景

6 枚目 墨書「白河村／2 月 6 日」の墨写生数棟の土蔵

13枚目 亀岡の風景、墨淡彩

14枚目 墨書「明治43年／2 月12日亀岡にて」の墨淡彩風景写生

24枚目 墨書「明治39年／〇〇」「御香宮の西」の樹墨写生

30枚目 墨書「三八の東手」の墨淡彩風景写生

以下、50枚目までは、数種の樹木の墨写生が続く。

48枚目 墨書「明治41年 8 月」

51枚目 墨書「菊池芳文先生／河北霞峰先生／に畫を習う頃」「明治38年 9 月」として、その頃の校内での柿や草花の写生がまとめられている。

56枚目 墨書「9 月15日写／於校内」「明治38年」の月見草墨淡彩写生

58枚目 墨書「桃山ニテ／9 月17日寫」の柿の墨淡彩写生

64枚目 墨書「明治40年秋／村上華岳君山内臥雲君と共に丹波路の／紅葉の写生にゆく。旅程六日間。」

空外が、写生の小旅行に出発したのは、この年の11月15日のことであった。墨書はこの写生帖の中扉のような体裁になっていて、以下11月16日の八ヶ峰の紅葉樹などの写生が続く。

74枚目 墨書「40年／11月15日／丹波中村」の墨淡彩風景写生

87枚目 墨書「明治40年11月17日／田歌峠／山内信一君／村上華岳君／みな別れ別れに／なって写生する。」

100枚目 墨書「17日田歌唐戸下流」の墨淡彩風景写生

106枚目 墨書「18日佐々里」

115枚目 墨書「明治40年11月／18日佐々里峠ニテ寫生 村上華岳君／と共に」

118枚目 墨書「村上君と共に日暮れて／にぎり飯を食いつつ／走る／18日原地」

122枚目 墨書「19日鞍馬道」の樹、小屋、大八車の墨淡彩写生

133枚目 墨書「下鴨の森にて／明治40年11月30日寫」の樹幹の墨写生

135枚目 墨書「星野萬次郎」 この写生帖の最終頁なので署名をしている。

29 『鉛筆風景』 明治43年 14.0×18.4cm 洋紙 18紙、右綴じ

表紙（厚板紙） 内扉にペン書「明治43年 5 月16日／星野空外」、裏表紙（厚板紙）



6～7枚目 鉛筆書「5月24日／発車まつ間」「ステーションは何となく物凄／い七条駅の北は京都と云／ふ戦争の地で南は一面田／圃で只落武者の様な／癒えがぼつぼつある。」の鉛筆淡彩スケッチ

他に車窓からの深草の遠景、月見草の着彩スケッチがあり、駅での人物スケッチもある。

13枚目 水彩によるイメージ風な人物画

これも携帯用の市販のスケッチ帖である。七条駅から汽車に乗った時の写生が中心になっている。鉛筆がほとんどだが、水彩によるイメージ画は他の写生帖にはない珍しいものである。

30 『鉛筆写生1』 明治45年 18.7×29.2cm 洋紙 26紙、右綴じ

表紙(厚板紙)、墨書なし、裏表紙(厚板紙) 墨書「明治45年2月／星野空外」

鉛筆による鶏、舟、猫、の写生など、特に書き込みはない。

15枚目 鉛筆書「博物館にて／45年4月」の仏像の鉛筆着彩の写生がこの前後にある。

21枚目 鉛筆・パステルによる袋付けされた梨の果樹の写生

鉛筆とパステルの使用がこれまでの写生帖とは少し雰囲気違ったものだが、素早いタッチの写生が多く細密なものはない。

31 『鉛筆写生2』 明治45年 18.7×29.2cm 洋紙 17紙、右綴じ

表紙(厚板紙)、墨書なし、裏表紙(厚板紙)、墨書「明治45年8月／星野空外」

鉛筆による鶏、とうもろこし畑、カボチャ畑、など、水彩・パステルによる着彩写生などあるが、綴じが傷んでいるのは、破った紙も多いことを示している。特に書き込みもなく、また素早いタッチの写生も同年2月のNo.25の写生帖と同様であり、体裁も同じ市販のものである。

#### 『星野空外絵画資料・写生(まくり)』

まくりの状態の粉本類は、明治・大正から昭和初期頃のものとは推定されるものだけでも約250紙ある。残念ながら、それらのほとんどについて、制作年を特定する書き込みがないので制作年に従った整理は難しい。しかし、その内容には、竹内栖鳳や西山翠嶂などの絵手本の写し、同学の平井秀三(樗仙)や榊原捨三(始更)、入江一雄などの美術工芸学校時代の写生も含まれていて全体として資料の貴重性を高めるものとなっている。今回は、それらの中で制作年が判断できるもの、30件を整理をした。

それだけのうちにも、空外の美工第一学年から絵画専門学校を卒業するまでの写生が揃っている。文展や帝展の出品作品の下絵は、見つけることはできなかったが、それに関連するいくつかの写生を確認できたのは、星野空外を知るいい資料になると思われる。また、昭和になってからのまくり写生には、それぞれに正確に年記の書き込みがあるので、終りに概数のみ付記した。

なお、写生の題については、書き込みに従い、特にないものについては、仮題として描かれている内容から付している。

1 『小手』 明治35年 39.7×82.4cm 和紙 3紙、墨淡彩

右下墨書「小手」、右下印「明治 十 年 月 日寫之／星野萬次郎」、印の中に墨書「三・五・十・二十九」右下朱丸甲印

2 『つわぶき』 明治35年 78.5×54.9cm 和紙 4紙、墨淡彩

左下墨書「つわぶき」、右下印「明治 十 年 月 日寫之／星野萬次郎」、印の中に墨書「三・五・十一・十四」、右下朱丸甲印裏下半分に墨書「明治四十年一月十一日寫之」の樹木と屋根の墨写生、他一紙裏に祠の墨写生がある。

- 15 『子供の顔』（仮題） 明治39年 36.3×23.3cm 洋紙 1紙、墨淡彩  
右下墨書「三十九年九月二十三日寫」
- 16 『雉とイカ、ハマグリ』（仮題） 明治39年 76.8×64.2cm 和紙 4紙、墨着彩  
雉図右下墨書「明治三十九年十一月三十日之夜寫生／約二時間／江口鸚洲君之ヲ持テ来／リ共  
ニ寫ス寒氣ノタメ指／先自由ナラズ」  
雉とイカ、ハマグリと二図になっている。イカとハマグリの制作時期は不明。
- 17 『白牡丹』（仮題） 明治40年 39.5×54.5cm 和紙 2紙、墨淡彩  
右下墨書「明治四十年四月三十日寫」
- 18 『牡丹』（仮題） 明治40年 39.5×54.5cm 和紙 2紙、墨着彩  
右下墨書「明治丁未春卯月三十日寫之／於学校庭園」
- 19 『白牡丹』（仮題） 明治40年 39.5×54.5cm 和紙 2紙、墨着彩  
右上墨書「於寫未之歳春校園・踏青三十日午后」
- 20 『エンドウ』（仮題） 明治40年 54.5×77.0cm 和紙 4紙、墨淡彩  
右下墨書「午前の葉の形／午後の葉／日光強くあたるにつ／れて三ツの葉が近／寄る」  
「明治四十年七月二十六日寫生／此の日暑き事切なり／蟻の多く豆の木より下へ／下より上へ  
と／往来す／一疋の蟻余の足を噛みき」
- 21 『六歌仙』 明治41年 53.7×38.5cm 和紙 2紙、墨淡彩  
右下墨書「明治四十一年戊申一月十一日／空外模」
- 22 『藪椿』（仮題） 明治41年 54.0×77.0cm 和紙 1紙、墨淡彩  
右下墨書「明治四十一年四月十七日寫／黒谷の近所の藪の中にあつたもの」
- 23 『木瓜の花とエンドウ』（仮題） 明治41年 54.0×77.0cm 和紙 1紙、墨淡彩  
右下墨書「明治四十一年四月十七日寫」、左下墨書「五月二十七日寫」
- 24 『いちはつ』 明治41年 54.0×77.0cm 和紙 1紙、墨淡彩  
右下墨書「明治四十／一年五月八日寫」
- 25 『桐の花』（仮題） 明治41年 54.0×77.0cm 和紙 1紙、墨着彩  
左下墨書「明治四十一年五月二十七日寫」、左中墨書「合歓の木」、余白に合歓の木の墨写生
- 26 『樹間風景』（仮題） 明治43年 58.5×76.0cm 洋紙 1紙、墨  
右下墨書「四十三年／四月十二日寫生」  
裏右半分、鉛筆による樹木の写生、裏左半分の二分の一に鉛筆による家の写生
- 27 『青き柿』（仮題） 明治43年 85.0×94.0cm 洋紙 1紙、墨淡彩  
墨書なし  
画面右中に緑書「尺三柳の〇〇と／大根の標本」、同じく右中に墨書「小人閑居爲／不善」な

どの写生には無関係と思える書き込みがある。描かれた柿の樹木の形は、明治43年の第4回文展入選の「青き柿とあひる」と同形のものであるので、その出品作関連の写生と判断される。

- 28 『裸婦』『淀川風景』（仮題） 明治44年 63.2×47.2cm 洋紙上下 2紙、コンテ  
制作年の書き込みはないが、2紙のうち下半分の裏に卒業制作『淀川』の家部分の墨淡彩写生、同じく上半分の裏には、対岸部分の簡単な鉛筆写生があるので、明治44年と判断できる。  
なお、この洋紙は竹内栖鳳の裸婦写生に使用されているものと同一のものであり、裸婦のモデルも同じ女性と思われるのが興味深い。別の写生帖から、空外が『淀川』のもとになった枚方の川岸風景を写生したのは、明治44年の2月と判明している。

- 29 『梨』（仮題） 明治44年 64.0×77.0cm 和紙 1紙、墨淡彩  
中左下墨書「八月／三十一日」  
制作年の書き込みはないが、明治44年の写生帖に同じ梨の果樹の写生が集中されているので、同時期のものと判断できる。

- 30 『畑のとうもろこし』（仮題） 大正4年 墨書なし、7枚、7枚とも墨淡彩  
1) 和紙 2紙、64.0×23.7cm 5) 和紙 2紙、35.0×46.7cm  
2) 和紙 2紙、54.0×37.5cm 6) 和紙 2紙、47.5×32.5cm  
3) 和紙 1紙、33.0×23.8cm 7) 和紙 2紙、37.5×53.7cm  
4) 和紙 1紙、37.5×26.8cm  
同じ時期と見られるとうもろこし畑での写生が、こよりでまとめられている。同時期の写生帖はなく、大正4年の夏、秋の出品作のための写生と思われる。この年、第9回文展にとうもろこし畑と鶏を描いた六曲一隻の「背戸の畠」が入選している。

昭和期のまくり写生（未整理なので概数としておく）

|       |    |       |    |       |    |       |    |
|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 昭和3年  | 1  | 昭和9年  | 1  | 昭和10年 | 1  | 昭和15年 | 1  |
| 昭和19年 | 10 | 昭和20年 | 10 | 昭和21年 | 24 | 昭和22年 | 17 |
| 昭和23年 | 1  | 昭和27年 | 35 | 昭和28年 | 17 | 昭和29年 | 8  |
| 昭和30年 | 8  | 昭和33年 | 13 | 昭和35年 | 9  | 昭和43年 | 1  |
| 不明    | 33 |       |    |       |    |       |    |

合計 190枚



## 星野空外 略年譜 （年齢は満年齢）

- 明治21年 10月20日、京都府紀伊郡伏見町京町（現在の伏見区京町）の農家に生まれる。
- 明治35年 13歳 4月、京都市立美術工芸学校の本科（四年）・絵画科に入学する。
- 明治38年 17歳 11月、美工絵画科三年生の紀州熊野勝浦写生修学旅行に行く。
- 明治39年 17歳 3月、京都市立美術工芸学校の本科を卒業する。
- 明治39年 17歳 4月、京都市立美術工芸学校絵画科専攻科に進む。  
7月、満州・奉天に旅行する。
- 明治41年 19歳 4月、京都市立美術工芸学校専攻科（二年）を修了し、研究科に進む。
- 明治40年 20歳 5月、美工生徒の比叡山写生に行く。  
7月、竹内栖鳳、西山翠嶂に引率され、奈良に写生旅行する。  
11月、村上華岳、山内臥雲と丹波路に写生旅行する。
- 明治41年 20歳 10月、第2回文展に「春の山」が初入選する。  
この頃、京都市吉田町上王大路23地（現在の神楽ヶ岡付近）の村山方に下宿する。  
12月、竹内栖鳳、西山翠嶂、竹杖会の人々、井口華秋、土田麦僊らと滋賀県の守山近郊に行く。
- 明治42年 20歳 5月、京都市立美術工芸学校研究科を一年修了の後、試験を受けて京都市立絵画専門学校  
学校の二学年に編入する。  
10月、東京、鎌倉、箱根に旅行する。
- 明治43年 22歳 10月、第4回文展に「青き柿と白きあひる」（四曲一隻）が入選する。  
同月、栃木県塩谷郡湯本・塩原温泉に旅行する。
- 明治44年 22歳 3月、京都市立絵画専門学校を卒業し、研究科に進む。
- 明治45年 23歳 3月、京都市立絵画専門学校の研究科を退学する。  
4月、村上華岳、入江波光らと共に『桃花会』に参加して、第3回展に「椿」他、数点を出品する。
- 大正2年 23歳 3月、『桃花会』展に「入江の晨」を出品する。  
10月、第7回文展に「春」（四曲一隻）が入選し、三等賞となる。
- 大正3年 24歳 3月、瀨に旅行する。  
12月、紀州・新宮の塩崎氏宅に翌年の2月まで逗留する。
- 大正4年 25歳 5月、不動立山、玉村北斗ら10人で研究団体『密栗会』を結成して、淀川沿岸にスケッチ旅行する。  
7月、『密栗会』（同人16人）の習作展を大丸呉服店で開き、「観音」「牛スケッチ」を出品する。  
10月、第9回文展に「背戸の畑」（六曲一隻）が入選する。
- 大正5年 26歳 4月、紀伊国日高郡松原村の塩路氏宅に8月まで逗留する。  
6月、『密栗会』を組織替えして、村上華岳、入江波光らを加えた新同人16人で再発足する。
- 大正8年 28歳 10月、第1回帝展に「秋晴」が入選する。
- 昭和2年 35歳 3月、絵専校友会誌『美』に「大津絵雑話」を執筆する。  
10月、第8回帝展に「犬」が入選する。